


ベトナム社会主義共和国		首都	ハノイ
 <p>赤は革命に流した戦士の血を、黄色の星の光は労働者・農民・知識人・青年の団結を表している。 中国語の「越南＝南方に建てた越の国」由来している。</p> <p>独立：1945/9/2 国連加盟：1977/9/20 政体：社会主義共和制</p>	国の概要	国土	面積 33万2,000 km <sup>2</sup> (日本の88%) インドシナ半島東部を占める南北に細長い国で、国土の75%がアンナン山脈を中核とする山岳と高原地帯で、平野は北部のソンコン川と南部のメコン川下流に広大なデルタがある。
		人口	8,420万人
		言語	ベトナム語(公用語)、少数民族言語、フランス語、中国語
		通貨	ドン
		気候	北部は亜熱帯モンスーンで5月～6月が雨季、南部は熱帯モンスーンで8月～9月が雨季である。全般に年間を通して高温多湿である。
		民族	ベトナム人84%、小数山岳民族8%、対人2%、クメール人
		宗教	仏教、道教、カトリック、原始宗教、イスラム教、プロテスタント、カオダイ教、ホアハオ教
教育制度の概要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園(1ヵ月半～)、幼稚園(3～5歳)、小学校5年間(6～10歳)、中学校4年間(11～14歳)、高校3年間(15～17歳)、大学4～6年間である。</li> </ul>	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 義務教育期間は、小学校1年生～5年生(6歳～10歳)中学校6年生～9年生(11歳～14歳)の9年間としている。</li> <li>・ ハノイなどの都市部では、高校までを含んだ12年間が普通教育として一般的である。</li> <li>・ 地方などの財政的に厳しいケースでは、小学校課程終了の第5学年までとなっている場合もある。</li> <li>・ 学区制がないため、評判のよい学校へ児童生徒が集中する。</li> </ul>	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校年度は9月5日から翌年の5月25日であるが、年によって多少の変動がある。</li> <li>・ 2学期制を採っていて、1学期は9月5日～1月10日、2学期は1月13日～5月25日となっている。</li> <li>・ 小学校は週休2日制(木・日曜日が休み)であるが中学校は日曜日のみ休みとなる。</li> <li>・ 授業は午前(6:45～11:30)、午後(12:30～17:15)の2部制が一般的である。人口が増え続けているので、学校の数も不足気味である。最近フルタイムの学校も都市部には出</li> </ul>	

	<p>来ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の単位時間は 45 分で、道徳や学級活動は時々行っている。</li> <li>・学校行事は少ない。</li> <li>・学年の最後には一斉テストがあって、卒業証書を受け取る。</li> </ul>
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校 3 年間（15~17 歳）、大学 4 年間（18~21 歳）、大学院は 22 歳以上となっている。</li> <li>・地方によって違うが、高校の卒業率がかなり高い。（80%）</li> <li>・高校は 3 年間で基本だが、より専門的な技術を学ぶ（高専）の場合は 4 年程度かかる。いずれの学校へ行っても大学やカレッジに進学することが可能である。</li> <li>・大学はほとんどは国立大学で、多くはハノイやホーチミン市に集中している。経済的な事情から大学に進学できる人は限られている。最近はお金があれば入学できてしまうという私立大学も増えてきている。</li> </ul>
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前教育は義務ではない。3 歳で入園する幼稚園は 3 年間の教育課程である。1 クラスの園児数が多く教育環境はよくない。</li> <li>・一般に保育園を利用する人はあまり多くなく、ほとんどが祖父母のところに預ける。共働き家庭の場合は、保育園をよく利用している。</li> <li>・保育園は、週 6 日開園し、終日開園しているものから時間限定で午前午後の交代制を取るもの、さらに農繁期に受け入れるところなど様々なシステムがある。</li> <li>・メコンデルタの雨季には保護者がいなくなった家庭で、幼児が溺死する事例が多く、この時期には赤十字社などの支援を受けて、臨時の保育施設が設けられたりしている。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学も含めて、インフラ整備、教師の意識改革・学校の管理運営の自由化、学生の意識改革の 3 つの改革を掲げている。</li> <li>・教師の中には、給料だけでは生活できないので、家庭教師や塾の教師をして生活を支えている。</li> <li>・貧困問題が深刻で、街にはストリートチルドレンとよばれる子どもたちがいる。</li> </ul>
休業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6~8 月までの夏季休業だけある。</li> </ul>
学級担任制、 教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は 1 人の担任が全ての教科を担当する。</li> <li>・中学校は科目によって担任が違う。主任先生がいる。</li> </ul>

学 校 生 活		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全部の科目の成績に基づいて、通信簿を作成する。通信簿は学期の終わりに渡す。(2回)教科及び行動の記録を言葉(優・良・可のようなもの)で表す。1~10で採点する学校もある。</li> </ul>
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学だけ飛び級があるが、稀である。</li> <li>・高校までは、平均点数が50以下であれば、または道徳が良くなければ落第となる。</li> <li>・大学では、夏季休業の初めに科目を登録し、勉強して評価され、平均点数と単位で落第が決定する。</li> </ul>
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校から大学まで外国語はほとんど英語で、他にフランス語や日本語を勉強する。</li> <li>・施設がないので、実験などはあまりない。</li> <li>・学校全体としてのクラブ活動もあるが、学年によっていろいろな活動をする。</li> <li>・高校と大学は自分の好きなスポーツを選ぶことができる。</li> </ul>
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家の大きな行事にセレモニーを行う。</li> <li>・セレモニー以外の学校行事(文化祭・体育祭など)は自由参加である。</li> <li>・学校行事で代表として選抜され、地区大会・全国大会などと進むものもある。</li> <li>・修学旅行は小学校・中学校で、時々ある。</li> </ul>
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食は希望者のみ購入する。</li> <li>・昔はあまりなかったが、給食設備の整った学校が増えてきている。</li> <li>・小学校は大部分、学校の食堂で食事をする。</li> </ul>
	チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムは全ての授業の切れ目に鳴らされる。</li> <li>・号令はセレモニー以外はない。</li> </ul>
	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題は社会・理科などの調べ物、数学の問題などである。</li> <li>・夏季休業中は宿題を出すこともある。</li> </ul>
	校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校によって違う。</li> <li>・ほとんどが白いシャツに緑のズボンを着用している。</li> </ul>
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両親又は親戚が出席する。ない学校もある。</li> </ul>
	子どもの一日その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝6時くらいに起床し、午前中か午後学校に行く。午前中の場合は、授業が終わったら、ほとんど家に帰って昼食をとる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後、掃除や食事の準備、後片付けなどを手伝っているが、都市部の学校では、勉強も忙しく、多くの生徒が休日も塾に通っている。</li> <li>・土曜日でも学校に行く。</li> <li>・中学校までの学校にはテーブル、椅子、黒板がある程度で、教具も視聴覚機器もなく、理科などの実験設備などが無い学校が多い。</li> </ul>
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授言語はベトナム語のみである。</li> <li>・普段、敬語をつかうことは、あまりないが、「です」「ます」のような形をよく使う。</li> <li>・日本語の学習では、「ツ」と「ス」が混同してしまうことがある。</li> </ul>
	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にない。</li> </ul>
	指による数え方 計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親指から順に小指に向けて数える方法がある。</li> <li>・十まで数えたら指を使う。</li> </ul>
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主食は米である。</li> </ul>
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車は右側通行で、信号は青に変わる前にも、黄色になる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナムのじゃんけんは「ワン トゥー トイー」といい、日本と同じハンマー（ダム）とはさみ（ケオ）と葉（ラー）で勝負する。ハンマーははさみに勝って、はさみは葉に勝って、葉はハンマーにかつ。掛け声は「ワン トゥー トイー」と言い、「1, 2, 3」という意味である。</li> <li>・日本については、技術先進国として知られているほか、「ドラえもん」などのアニメに人気を集まっている。</li> </ul>	

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校事情・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・ベトナムの教育制度・・・・・・・・ベトナム カントー大学 akira yamasita
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・SIRA キッズ
- ・ベトナムとは・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・ベトナムの教育と子ども・・・・・・・・神田 嘉延
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子

・留学生より（2名）